

事業評価票

127	交通情報カメラと高度画像解析中央装置の整備 (警視庁交通部／一般会計)	事業開始	平成 28 年度
		事業終了予定	平成 ー 年度

【局評価】

1 どのような経緯で事業を始めたか、何をを目指すのか	
<p>○ 円滑な交通対策を行うために、刻一刻と変化する交通状況を即時・正確に把握する必要があるため、昭和63年から主要交差点に交通テレビカメラシステムを整備し、運用している。 <交通テレビカメラシステム> 交差点1か所あたり2台のテレビカメラ（スピーカー併設）を設置し、警察署中央装置と一体で運用</p>	
根拠法令等	

2 どのように取り組み、どのような成果があったか	
<p>○ 都内42警察署に警察署中央装置及び338箇所のテレビカメラを整備し、運用することで、円滑な交通対策を推進している。</p> <p>【運用方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> 警察署及び交通管制センターにおいて、都内の交通情報をカメラによって把握 また、警察署においては、違法駐車車両に対する警告放送を行い、交差点付近の違法駐車を排除 	

3 どのような課題や問題点があったか	
<p>○ 交通テレビカメラシステムは、交差点の各流入部の交通状況を一度に確認することができない。</p> <p>○ 駐車監視員による違法駐車車両排除活動が定着し、警察署による警告放送の必要性が低下している。</p> <p>○ 整備費用が高価である。</p> <p>○ カメラ画像解析技術の進歩により、把握した交通情報を信号制御に活用することも、技術的に可能になってきている。</p>	

4 局として、事業をどうしていきたいか							
拡大・充実	見直し・再構築	移管・終了	その他				
<p>○ 東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の開催による交通対策の必要性を踏まえ、交通テレビカメラシステムの代替として、より安価に各流入方向の交通情報を把握できる交通情報カメラを整備する。 <交通情報カメラ> 交差点の各流入方向に固定カメラと1台のドームカメラを設置・運用</p> <p>◆単価（一式）比較 単位：千円</p> <table border="1"> <tr> <td>交通テレビカメラシステム</td> <td>35,825</td> </tr> <tr> <td>交通情報カメラ</td> <td>2,804</td> </tr> </table> <p>○ 併せて、高度画像解析中央装置を整備し、信号制御への活用を図る。</p>				交通テレビカメラシステム	35,825	交通情報カメラ	2,804
交通テレビカメラシステム	35,825						
交通情報カメラ	2,804						
歳入	26年度決算額	— 千円	歳出	26年度決算額	— 千円		
	27年度予算額	— 千円		27年度予算額	495,150 千円		
	28年度見積額	— 千円		28年度見積額	307,116 千円		

【財務局評価】

5 財務局として、成果や課題などについて、どう考えたか	
<p>○ 東京2020大会の開催を踏まえ、交通対策をより強化していく必要がある。</p> <p>○ 交通テレビカメラシステムの代替となる交通情報カメラの整備については、安価に各流入方向の交通情報を把握することができるため、費用対効果の高い取組と認められる。</p> <p>○ しかし、交通情報カメラは新たに導入する装置であり、信号制御への活用も含めて、実用性の確保が不可欠である。</p>	

6 28年度予算で、どのように対応したか			
拡大・充実	見直し・再構築	移管・終了	その他
<p>○ 交通情報カメラ（高度画像解析中央装置を含む）の整備については、実用性のある運用技術を確立していくため、平成28年度を試行と位置づけ、見積額のとおり計上する。</p> <p>○ 28年度において、交通情報カメラの運用に係る精度、効果等の検証が必要である。</p>			
歳入	28年度予算額	— 千円	
歳出	28年度予算額	307,116 千円	